

\* フロイトは、人間のあらゆる営みの原動力を本能衝動としての性本能に求めました。この性的エネルギーをフロイトはリビドーと呼びました。そしてフロイトは、性本能をいくつかの部分衝動に分類し、それらが精神発達と強く関係する点に注目しました。

↓↓↓

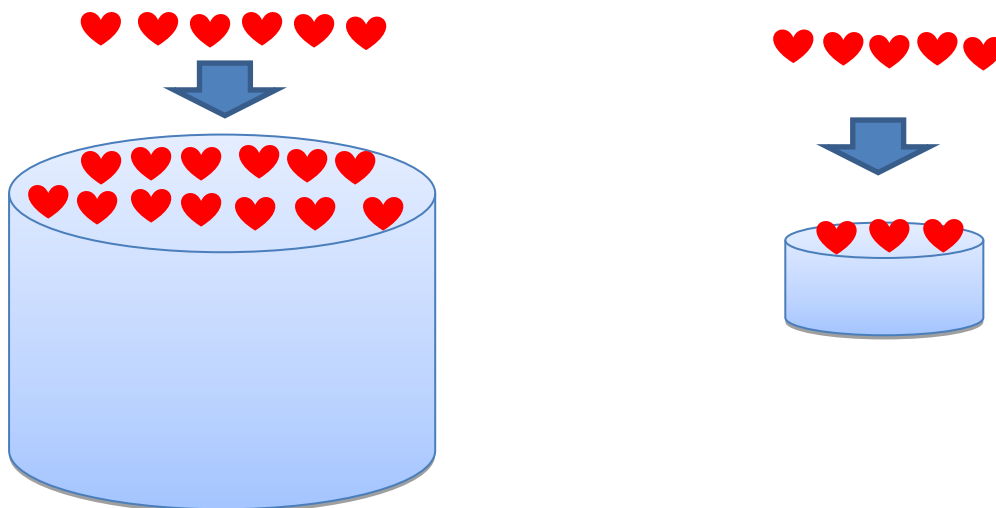
\* フロイトは「口唇期」、「肛門期」、「男根期（エディプス期）」、「潜伏期」、「性器期」の5段階を設けました。フロイトの発達段階理論では、各段階での身体的部位で得られる快感をどのように受け取るかが、性格の中心的な元型を形成する重要な条件であると考えました。

\* フロイトによれば、各発達段階の中で「固着」（欲求が充足されずに発達がある段階でとどまってしまうこと）があると、以下のような性格が形成されると考えられています。「固着した人」について、「知識や体力を身につけ、外見は大人であるが精神的には子どもの人」とお考え下さい。

\* 以下、フロイトの「固着」という概念で子どもの性格について考えていきます。

### 1. 口唇期性格（生後1歳半くらいまで）：

- 食物を嘔む行動、ミルクを飲む行動と結びついて、口唇・口腔が敏感となります。ここでは乳児が母親にまったく依存しているため、母親がどのような関係を作るか、つまり母子関係の在り方によって、性格の基礎となる安定感や信頼感の有無が決定されます。
- 口唇期への固着で形成される性格は、他者に依存する「甘えん坊」の性格です。また、多弁、食道楽、喫煙などの口唇的欲求を満たそうとします。
- この性格は、口唇期に母親などの愛情を十分に受け取ることができなかった場合に形成されると考えられます。（ただし、下図のように、多くの愛情を必要とする赤ちゃんと、少しの愛情で満足する赤ちゃんがいます。前者の場合、平均以上の愛情を親が与えたとしても子どもは満足せずに口唇期の固着が残る可能性があります。養育者だけにその要因を求めることはできません）。



\* この図は、「愛情箱」という概念です。それぞれの赤ちゃんが欲する愛情を、箱の体積で表現しています。右側の赤ちゃんは、少しの愛情で満足する、という図式です。

## 2. 肛門期性格：(1歳半～就学前くらいまで)

- ・ 排便に伴う肛門刺激に快感を覚える時期です。同時に糞便を不潔なものとする「しつけ」を受けます。
- ・ 排泄に対するしつけを親がどのような態度で行うかが重要となります。トイレトレーニングに手間取ると、几帳面、しまりや、頑固といった特徴が現れます。適切であれば、自分を自分でコントロールできる安定した性格が形成されます。
- ・ これは、「子どもの能力の要因」と、「親がその子にどれだけのものを求めるのか」という、**2つの要因**とで理解していく必要があります。
- ・ しつけが早すぎたり、厳しすぎたりすれば、私の強い、意地っ張りで拒否的な性格が形成されると考えられています。

## 3. 男根期（自己愛）性格：(就学前～小学校中学年まで)

- ・ 小さい子どもは、性器をいじったり性器に関心をもったりします。この年齢では、男児も女児も男性性器だけしか性器と思わないことによる命名です。親への同一視（あこがれ）によって、男の子は男らしさ、女の子は女らしさを形成していきます。⇒（男女で遊び方が違ってきます）
- ・ そのため、この段階への固着は「自己顕示欲」や、「過度の男性性のアピール」、「自信過剰」、「尊大さ」、「異性への誘惑傾向」などを持つ性格となってあらわれます。
- ・ この性格についても、「もともとその子がどれくらいの自己愛を持っていたのか」と、「どれくらい自己愛が満たされてきたのか」という2つの要因が考えられます。

## 4. 潜伏期：(小学校中学年～高学年まで)

- ・ 幼児性欲は表面上いったん消失し、羞恥心や罪悪感が芽生えます。仲間関係が同性中心となり、同性との交流が活発になり、それを通じて男らしさ、女らしさがますますはっきり形成されていきます。道徳や芸術などへの関心が生じてきます。
- ・ この段階への固着は、同性との人間関係・友人関係は良好であるが、異性との人間関係作りにあたっては奥手になってしまう、といった形で現れます。

## 5. 性器的性格：(思春期)

- ・ 思春期となり、性的欲動が精神活動の中心となります。思春期を迎えた子どもは、強い心理的葛藤を抱えながら、自我を確立していきます。
- ・ この時期の前半においては同性の友人、後半においては異性との間に相互的で密接な関係を築くことが重要な課題となります。
- ・ 理想的な発達段階に到達したときにもたらされる健康的な性格です。自分の「精神的エネルギー」が求める欲求を、社会から許されるような形で実現していきます。

## まとめ

- \* 私たちの性格は、1. ～ 5. の特徴を少しずつ残した「性器的性格」であると考えられます。どの段階の特徴をどれだけ残しているのか、が私たちの「個性」であると考えられます。
- \* 今現在の私たちの性格は、幼い頃の大人と関係性の影響を大きく受けています。逆に考えると、子どもたちに対して精いっぱい愛情を注いで接してあげることが、その子の10年後・20年後の健全さ・幸福につながってくるということです。

(子ども学のカリキュラムにも「心理学」があるのは、そういった意味もあると考えられます)